



試すっ子

学校教育目標「試す人になろう」 No.22

子供に気づかせたい「しあわせ」とは

校長 中野 主税

子供たちの心が穏やかで安定していたら、どんなにいいのだろうと思うことがたびたびあります。表情が暗くなり、行動がぎくしゃくし、突然思いもよらない行動をする子供の心を見ると、いらいら、不満、とげとげ、不安などが詰まっているように感じます。

「生活は豊かになったが、心は貧しくなった」と言われることがあります。一体どうしたことなのでしょう。実は、この「豊かさ」にこそ原因があるように思われます。テレビや雑誌には、これでもかと思うほど次から次へと新しい魅力的な商品が紹介されます。「自分もほしい。」「〇〇ちゃんは、自分より新しいものをもっている。」など、子供たちは、商業主義の荒波に流され、おぼれそうです。

「みんなが持っているのに僕だけない、買って。」と言われますと、親として「せめて人並みに・・・。」と考えてしまいます。ある調査によると、子供が「クラスのみんな・・・。」と言う場合には、3、4人程度を指しているということです。

ここで、大切な点について考えてみたいと思います。

1点目は、**子供は、友達と比較して物事を考えてしまう**ということです。しかも、自分より豊かで恵まれている友達と比較している限り、絶対に満足することはありません。どのようなことにも上には上があるからです。**自分なりの満足感、幸せ感**をどのように育て上げるかが、その子供にとってとても大切なことになります。

2点目は、**子供に自分に足りないことばかりに目を向け、不平不満を言い続けるという考え方を植え付けてはいけない**ということです。このような考え方を植え付けられた子供は、自分をいつも不幸な人間であると思い続けてしまいます。もし、**今自分は、とても恵まれている**ということに目を向けることができたなら、どんなにしあわせなことでしょう。

ある新聞に、生まれつき自分で声を出すことができない高校生の作文が載っていました。その一部です。「私は、もし神様が一つだけ願いをかなえてくれるなら、自分の声で思い切り歌を歌いたいです。」声なんか出て当たり前だと思っていませんか。当たり前と思っていたことを改めて考えますと、**私たちはなんとたくさんのものに恵まれている**ことに気づきます。このようなことを教えてあげるのも、私たち大人の役目ではないでしょうか。

3点目は、**子供は、常に目に見えるものばかりに関心をもつ**ということです。本当は、目に見えないものにこそ真に大切なものが隠されているのです。例えば、相手の気持ちを考えるということは、目に見えることではありません。

「しあわせは、その人の心がつくるものである。」と言われます。私たち大人は、子供の欲しがらるもの全てを買い与えることはできません。また、そうすることが子供にとっていいこととは思えません。自分がないものを探させるよりは、**今あるしあわせに気付かせる**ことこそ大切なのではないかと考えています。

これからも家庭・地域・学校で力を合わせて光明の子供たちを心豊かに育てていきましょう。最後までお読みいただきありがとうございました。